

項目ごとの評価（中・小項目とも）4段階評価 A：極めて達成度が高い B：概ね達成できている C：課題を残している D：課題が多く速やかな改善が必要

大項目	中項目	小項目	目標及び具体的な評価項目	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善	
I 教育活動に関するもの	(1) 教育目標・教育計画	① 教育目標について	「至誠力行」の校訓の下、次の社会を担い、世界に雄飛する人材を育成すること。	教員および生徒が、教育目標に向かって日々努力を続けた。	B	建学の精神を慮りながら、本校の特色を活かした教育活動ができたか。	次年度以降も社会のリーダーとなる人材の育成に努める。	
		② 教育計画について	第二期SSHの2年目の教育活動を計画に基づいて進めること。また、学習指導要領の改訂にともなう高校の教育課程の編成に着手すること。	SSHについては、高校2年生を対象にした新科目「文系科学探究」、「SS科学探究I」を開講するなど、当初の計画に基づいて順調に進めることができた。また、高校の新教育課程の編成に着手することができた。	A	SSH活動を計画どおりに推進できたか。学習指導要領の改訂にともなう高校の教育課程の編成に着手することができたか。	SSHについては、課題研究を充実させるために、評価方法の研究と実践をさらに進めていく必要がある。また、高校の新教育課程については、各教科で今年度作成したものを基に、学校全体として検討・調整を進めていく。	
	(2) 教科指導	① 学習指導計画の立案について	6カ年を見通して、各学年および各教科において、学習指導計画を策定し、その計画に基づき授業を実施すること。	中1・中2の英語・数学の授業で20名の少人数授業を継続して実施した。また、昨年度増員したALTの勤務日を増やし、高校1年生に続いて、今年度は高校2年生においても英語の「話す」「聞く」技能を高める授業を実施した。	B	各教員が学習指導計画に基づいた教育活動を実践したか。	中学校においては、各教科の基礎的な内容を確実に身に付けさせるための指導方法や取組について、工夫を積み重ねていくことが必要である。また、同時に、上位層を伸ばすことも重要である。	
		② 指導方法の工夫	学習指導方法の改善に努めること。	年2回、教科ごとに研究授業を実施した。また、IT教育設備推進事業の2年目に当たり、中学校、高校ともそれぞれ二つの学年でタブレット及びプロジェクトを活用した授業を実施した。	A	課題意識を共有しながら、学習指導方法の改善に努めることができたか。	生徒が能動的に学ぶ授業の構築をさらに進める。また、そのためにも、ICT機器の活用について研究・実践を継続する。	
	(3) 道徳 (人権教育)	道徳(人権教育)について	人権感覚や規範意識を身に付けるように指導計画を作成し、人権教育活動を実施していくこと。	人権ホームルームの実施や講演会の開催、また、人権教育部による「心のプリント」を毎月配布することを通して、左記の目標の実現に努めた。また、中学校では、今年度から「特別な教科 道徳」を年間指導計画に基づいて実施した。	B	B	左記目標の指導計画に基づいた人権教育活動を実践できたか。	中学校での「特別な教科 道徳」については、今年度の実践を振り返り、改善を図りながら進めていく。
	(4) 特別活動等	① 生徒会活動について	自主的かつ主体的に行動できる人物となるよう、生徒会指導部を中心に、適切な指導と助言をおこなうこと。	文化祭や文化委員会行事等を生徒自らが企画・運営し、実施することができた。	A	B	生徒会活動が自主性・主体性を育む活動だったか。	一層自主的、創造的に活動させたい。
		② クラブ活動について	クラブ活動を通じて、心身の健全な育成のみならず、挨拶等の礼儀や協調性を育てていくこと。	左記の目標に則った活動の他、近畿大会や全国大会に出場したクラブもあった。	B		クラブ活動を通じて、心身の健全な育成のみならず、礼儀や協調性を育むことができたか。	本校の特色である文武両道を今後も実践していきたい。
	(5) 総合的な学習の時間の指導	特別講座・「卒業論文」について	広い視野を養い、興味・関心を高めるために、学外から有識者を招聘した特別講座等を実施する。また、中3における卒業論文の指導を工夫する。	左記目標にも掲げた特別講座を実施した他、中3時に生徒一人一人が「卒業論文」を制作した。また、SSH事業の一環として、科学に対する興味・関心を高めるため、出前講義や公開講座を開催した。	A	A	「卒業論文」制作における指導の他、生徒の興味・関心を高める特別講座を企画・実施できたか。	第二期SSHにおける高校での課題研究につながるよう、引き続き「卒業論文」の指導を行う。
	(6) 生徒指導	① 生徒指導について	集団生活のマナーやルールを理解させ、基本的な生活習慣を確立させることで、社会の範となるべき人物の育成に努めること。	学級活動やホームルーム活動等を通して、集団生活のマナーやルールを理解させることに努めた。しかし、生徒全員に徹底するには至らず、いじめ事案が発生した。	C	C	集団生活のマナーやルールを理解させ、基本的な生活習慣を確立させることができたか。	いじめを防止するための取組を進める。
		② 教育相談等について	中学・高校という思春期特有の多様な悩みを持った生徒に対し、教育相談の体制を充実させるとともに、その支援を図っていくこと。	日常の教職員による相談活動の他に、スクールカウンセラーとの面談を設定することで、相談を必要とする生徒・保護者への対応に努めた。	B		教育相談の体制が十分機能しているか。	スクールカウンセラーと学年・学級担任との間でより緊密な情報交換ができるよう、次年度は、スクールカウンセラーに来校いただく日を、これまでの週1日から、週2日とする。
(7) 進路指導	進路指導について	生徒の進路実現に向け、学年に応じた学力養成のための指導を実施すること。	各学年において、補習・外部模試等を実施。さらに、中3・高1を対象とした東大・京大見学会、高2生を対象とした夏季、冬季の合宿セミナー、昨年度から始めた中学3年生対象の「中3学力増強プログラム」を継続して実施した。	B	B	学力養成のための取組が実施できたか。	大学入試改革への対応の一つとして、学習や課外活動等の取組や成果などについて、ポートフォリオ化をより充実させていく必要がある。	

【 奈良学園中学校・高等学校 】 令和元年度 学校自己評価書 II 学校経営に関するもの

令和2年3月30日

項目ごとの評価（中・小項目とも）4段階評価 A：極めて達成度が高い B：概ね達成できている C：課題を残している D：課題が多く速やかな改善が必要

大項目	中項目	小項目	目標及び具体的な評価項目	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善	
II 学校 経営 に 関 す る も の	(1) 組織運営	校内会議の運営と位置づけ	学年主任会議、校務分掌の長による校務運営会議、職員会議を定期的開催することで、全教職員が課題意識を共有できるように努めること。	左記の会議を開催し、報告・相談・連絡により、情報や課題意識について教職員間で概ね共有することができた。 なお、校長と教職員との面談においても課題意識の共有に努めた。	B B	教職員による情報や課題意識の共有化を図ることができたか。	課題意識をより深く共有できるようにしたい。	
	(2) 研究・研修	① 校内研修	教職員の資質及びスキルを高めるため、校内研修を実施していくこと。	教務部の主導による研究授業を実施することができた。また、講師を招聘しての生徒指導に関する研修会や定期的な人権研修をおこなった。	B	B B	教職員の資質・スキルを高めるための校内研修を実施できたか。	生徒の指導に直接つながる研修会となるよう、その内容を今後も工夫していくことが必要である。
		② 校外の研修への参加	教職員の資質及びスキルを高めるため、校外での研修にも積極的に参加していくこと。	予備校が主催する学習指導スキル向上等の研修会への52名の教員が参加した。また、他校での研究会に参加した教員もいる。	A		資質・スキルを高めるため、校外での研修に教職員が積極的に参加したか。	教科指導に関する研修の成果を各教科等で一層共有していくことが必要である。
	(3) 安全管理	危機管理体制について	生徒が安全で安心して過ごせる環境作りを計画し、教職員は常に安全管理の意識を持って行動すること。	今年度の防災避難訓練では、地震を想定し、シェイクアウト訓練もおこなった。また、熱中症等を防止するための救急法等講習会、自転車安全運転のための指導を継続実施した。	B B	B B	防災の意識を持って、教育活動に従事できたか。	防災避難訓練、救急法等講習会、自転車安全運転のための指導を、工夫しながら実施していく。
	(4) 保健管理	保健指導・教育相談について	生徒の、健全な心身の発達を促し、そのために必要な情報の収集及び実践をおこなうこと。	健康診断を通じた保健指導等をおこなった。また、研修旅行や宿泊オリエンテーションなどにおける食物アレルギー事故防止に努めた。 スクールカウンセラーを交えた教育相談を実施した。	B B	B B	保健指導等を通して、生徒の健全な心身の発達に寄与する教育活動を実践できたか。	スクールカウンセラーと教職員との情報交換がより円滑にできるような体制をつくる必要がある。
	(5) 家庭・地域との連携	① 地域との連携について	地元自治会や近隣の福祉施設と連携しながら、地域とのつながりを深める活動をおこなっていくこと。	小学生と保護者を対象とした科学教室の開催、室内楽部の生徒による特別養護老人ホームでの慰問演奏会、「やまとの夏祭り」への参加、地域の小学校の「放課後子ども教室」との交流などを通して、地域とのつながりを深めた。また、地域の中学校の生徒指導担当者と定期的に情報交換を行い、連携を図った。	B B	B B	地域とのつながりを深めることができたか。	近隣住民の学校に対する信頼を深めるためには、通学マナーなど、日常の生徒の行動に対する指導も大切である。
	(6) 施設・設備	教育環境の整備について	全教職員で連携を取りながら、学習環境を整備していくこと。 また、既存の教育施設の補修にも力を注ぐこと。	昨年度から3カ年計画で着手したIT教育設備推進事業を計画どおり進めることができた。また、第1体育館の照明をLED化するなど、既存設備の改善・補修にも努めた。	A A	A A	教育環境の整備を進めることができたか。	次年度も、IT教育設備推進事業を計画に則って進め、教育環境の整備に努める。
	(7) 情報管理・提供	① 個人情報の管理・保護について（未）	学校法人奈良学園個人情報保護基本方針に則り、個人情報の管理について周知徹底をおこなうこと。	個人情報管理について周知徹底に至らず、10月末に、成績表等の生徒個人情報が記録されているUSBメモリを教員が紛失する事故が起こった。	C C	C C	学校法人奈良学園個人情報保護基本方針に則った個人情報の管理ができたか。	USBメモリ紛失事故に当たり、このような事故が二度と起こらぬよう、改めて教職員に生徒個人情報の管理を厳重に行うよう指示したが、今後も継続して注意喚起を続けることが必要である。
	(8) 入試及び広報活動	① 広報活動について	本校の特徴やよさを保護者や子どもたちに知っていただけるよう、広報活動を行うこと。	在校生に協力してもらうなど、学校見学会や説明会の内容を工夫することで、本校のよさをより知っていただくことができた。 また、中学入試の出願者数については、昨年度より13%増加した。	A A	A A	本校の特徴やよさを、保護者や子どもたちに知っていただくことができたか。 応募状況はどうであったか。	本校の特徴やよさを知っていただくために、学校見学会・説明会、塾等での説明会におけるプレゼンテーションの方法等について工夫・改善を継続して行う。